

第2章 教育研究組織

1. 現状の説明

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

本学の前身である松蔭女学校は、1892年イギリス国教会の宣教師H.G. フォスによって神戸市北野町に設立された。以後変遷を経て、現在の神戸松蔭女子学院大学と松蔭中学校、高等学校に至るのであるが、教育理念は一貫して、キリスト教の愛の精神を基本とした女子教育を通じて、他者への思いやりの心をもって社会へ貢献することができる社会人を養成することを目標としている。設立当時の科目は英語と裁縫であった。英語はキリスト教の精神と新しい文化を学ぶためのツールであり、ある意味で教養を、裁縫は女性の自立、つまり実学を象徴していた。この設立の精神は本学の学部構成に反映されている。

本学は、1966年の大学開学以来、長年にわたって英語英米文学科と国文学科からなる文学部のみの単科大学であった(キリスト教学科も設立されたが1980年廃止)。2000年に文学部に総合文芸学科を新設した。2000年には大学院文学研究科(英語学専攻・国語国文学専攻)を、2002年に言語科学専攻(博士課程)を設置した。2001年に文学部に設置された心理学科を2004年に人間科学部に移設した。また翌2005年には、短期大学の生活科学科を発展的に解消、改編して、人間科学部に生活学科 都市生活専攻、食物栄養専攻を設置した。さらに2008年には子ども発達学科とファッション・ハウジングデザイン学科を新設した。

2011年から英語英米文学科は英語学科となり、英語プロフェッショナル専修とグローバル・コミュニケーション専修からなる新しい学科となった。同時に国文学科も現代日本語専修と日本文化専修からなる日本語日本文化学科として再出発をした。

このように、現在では、表2-1のように文学部には英語学科、日本語日本文化学科、総合文芸学科があり、人間科学部には心理学科、生活学科都市生活専攻、食物栄養専攻、子ども発達学科、ファッション・ハウジングデザイン学科がある。

学科を超えて教養教育の理念、カリキュラム編成、運営を所管する全学共通教育センターがある。それぞれの学科では全学共通科目を設定して、本学の教育理念であるキリスト教の精神、実践的教養、キャリア教育を展開している。キリスト教、特にキリスト教の愛の精神の理解は全学共通科目の中心的な柱であり、「神戸松蔭とキリスト教」の必修をはじめとしてキリスト教学科系列科目群を設定し全学生が学んでいる。実践的教養に関しては、情報の受容・発信において必要とされるコミュニケーション力を養うコミュニケーション教育系列、情報教育系列を中心に学んでいる。また深い教養知識と広い実用技術の融合をめざす一般教養系列、健康・スポーツ系列科目を設置している。一般教養系列は基礎・導入科目から発展科目まで展開している。キャリア教育はキャリア教育系列で主として学んでいる。

研究所としては、キリスト教文化研究所と言語科学研究所を置いている。キリスト教文化研究所は1980年に廃科となったキリスト教学科の流れを受け継ぐものであり、キリスト教とキリスト教文化の研究を、言語科学研究所は言語研究諸分野の研究と機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin* の刊行を目的としている。

専門教育はそれぞれの学科に任されているが、学科を横断する教育に関しては6つのセンターが関与している。先述した全学共通教育センターをはじめとして、本学の設立の理念に基づいたキリスト教教育・行事に関することは、チャペルを中心としたキリスト教センターが所管している。主として実践的教養としてのコミュニケーション力を養う外国語の教育内容・方法の検討、イングリッシュ・アイランド、ピア外国語応援サロン、CALL教室の運営などを所管する外国語教育センター、外国の大学との交流協定、外国の協定大学への学生の留学、留学生の受け入れを所管する国際交流センターがある。情報の受容、発信力を養う情報教育の教育内容・方法の検討、コンピュータ教室の管理、学内ネットワーク利用についての管理運営を所管する情報教育センターを設置している。キャリア教育については、キャリア・ビジネス教育のカリキュラム編成、時間割・クラス編成を所管するキャリア教育センターが主として担当している。

カリキュラムに直接関与しないが、神戸松蔭こころのケア・センターがある。このセンターは心理臨床業務の実践を行う施設として設置し、主に学外からの来談者に対して心理療法、心理検査を行っているが、大学院生の教育・訓練の場でもある。また、セミナーや機関誌『神戸松蔭こころのケア・センター臨床心理学研究』の刊行といった研究活動も行っている。本学の理念である他者を思いやるキリスト教の愛のこころをもって、地域社会に貢献する施設として活動している。

表 2-1 教育研究組織

| | | |
|------------|-------|---|
| 神戸松蔭女子学院大学 | 大学院 | 文学研究科 言語科学専攻（博士課程）（2名） 英語学専攻（修士課程）（5名） 国語国文学専攻（修士課程）（5名） 心理学専攻（修士課程）（10名） |
| | 文学部 | 英語学科（140名） |
| | | 日本語日本文化学科（70名） |
| | | 総合文芸学科（50名） |
| | 人間科学部 | 心理学科（70名） |
| | | 生活学科 都市生活専攻（60名） 食物栄養専攻（60名） |
| | | 子ども発達学科（80名） |
| | | ファッション・ハウジングデザイン学科（60名） |
| | | 全学共通教育センター 外国語教育センター 情報教育センター キャリア教育センター キリスト教センター 国際交流センター |
| | | キリスト教文化研究所 言語科学研究所 神戸松蔭こころのケア・センター |

所、センターは自己点検・評価をもとに中長期的な展望、方針を全教職員に対して発表している(資料2-2)。

学部においては、自己点検・評価に関して2007年度後期より専任教員全員に評価を義務づけたが、2010年度前期から専任、非常勤ともに評価を義務づけ非常勤講師雇用契約書にも担当授業に関する自己点検・評価票の提出を契約条項(第4条第4項)として入れた(資料2-3)。授業アンケート結果を参考資料として配布し、到達目標に達したかどうか、問題点はどこにあるか、改善の具体策をどのように設定したかについて毎年度点検している(資料2-4)。研究科においては、2012年より授業アンケートを行っている。随時項目の見直しを行い、大学院の授業形態に沿った内容に変更しながらアンケートを実施している。専攻単位の回答結果は専攻代表に返されて、専攻単位のコメントが院生に公表されている。授業単位の回答結果は担当教員に返され、自己点検・評価票作成のデータとして学部同様に授業の改善につながっている(資料2-5)。

このような自己点検・評価は、次年度のシラバスにおける授業計画にも生かされている。昨年度の自己点検・評価を踏まえての到達目標の設定、授業計画、評価基準と評価の方法の見直しにフィードバックされている。担当教員によって作成された次年度のシラバスは学科長・専攻長が、カリキュラムポリシーに沿って作成されているか点検をしている。

各教員の自己点検・評価は所属する学科長・専攻長が確認をすることによって、次年度の専門教育カリキュラムの改善資料となっている。さらに学科単位で検討された専門教育カリキュラムは、拡大教務委員会において検討され、最終的には教授会に諮り、全学の理念、目的との整合性を点検している。全学共通科目については、全学共通教育センター所員によって点検され、さらに専門科目との整合性については全学共通教育委員会において検討している(資料2-5)。

2. 点検・評価

●基準2の充足状況

本学は、理念、目的に基づきその実現に必要な学部・学科・大学院研究科などの教育研究上の組織を編成・設置し、自己点検・評価の組織を活用しながら大学に対する社会的要請や国際環境に適切に対応し管理・運営をしている。

変化する社会的要請や国際環境に対応するために、2010年度から体制を整え、教学委員会をさらに充実させ、学長、2人の副学長、教務部長、学生部長と編制を整えた。さらに新たに選挙による入試部長を設けた(資料2-6)。副学長制度の発足とともに学長、2名の副学長と事務局長からなる「学長室会議」を設け、学長と共同して中・長期的視野を持って大学の運営にあたる議題を取り扱うこととなった。学長室での議論は、先の教学委員会や理事会に提案することも行われている。

①効果が上がっている事項

文学部の英語英米文学科と国文学科は教育内容を刷新し、新しいカリキュラムの下2011年に英語学科、日本語日本文化学科としてスタートした。外国語教育センターの前身である語学教育センターは英語だけに対象が限定されていたが、一般教育系学科の解散を期に、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語を加えた外国語教育センターとして新たに出發し

た。これにより従来の懸案であった外国語教育の運営、カリキュラム編成を一元化することが可能になった（資料 2-7）。

アクションプラン発表会は、教職員が大学、大学院、学部、学科・専攻、センター、図書館、各部署の中長期的な展望、方針を知るよい機会になっている（資料 2-2）。

臨機応変に新たな課題に対応するために「プロジェクトチーム」制を導入した。2008年度から2009年度にかけて新学部構想、研究活性化の2つのプロジェクトチームが議論を重ね、その結論はいずれも2010年度までに実行に移された（資料 2-8、資料 2-9）。2011年度からは教育業績プロジェクトチームが発足し、評価方針や評価方法が答申され2013年に規程化された（資料 2-10）。これらのプロジェクトチームは短期間（1年以内）に結論を出し、そこで出した結論を教学委員会、理事会、教授会などに提案してきた。2012年度からは付設の保育園設立プロジェクト、人間科学部改編プロジェクトが設置され同年中に答申（資料 2-11、資料 2-12）を提出している。2013年度からキャンパス整備計画プロジェクトチームが発足し答申を提出した（資料 2-13）。

②改善すべき事項

教育研究組織の適切性についての検証は、機関レベル、プログラムレベル、授業レベルで協議されるが、全体として系統性を持って実施されているといい難い。

加えて、教育研究組織の適切性について自己点検・評価のより客観性・妥当性を担保するために定期的に学外者の検証を加えるまでには至っていない。

2010年度から全学共通科目を主として担当する教員が各学科、専攻に所属することになった。専門科目を担当する教員と全学共通科目を主として担当する教員が学科のカリキュラム改革に協働して携われるような学科運営が期待されている。専門科目の履修系統図（カリキュラム・ツリー）については2014年度各学科で作成した。しかし、全学共通科目と専門科目を関連づけた履修系統図（カリキュラム・ツリー）の作成はまだ構想の段階である。専門科目を主として担当する教員と全学共通科目を担当する教員がともに、各学科・専攻のディプロマ・ポリシーを踏まえた履修系統図（カリキュラム・ツリー）を作成することが課題である。

学部の将来を踏まえた学科改編などを伴うグランドプランに沿った長期計画に基づいた教育研究組織の見直しについてはまだスタートラインの段階であるので早急に学長室を中心として進めていきたい。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

アクションプラン発表をより効果的なものとするために、内容・運営について整備する。

2011年度からは文学部のカリキュラムが学科・専修を超えて学べる自由度の高いカリキュラムになったことと並行して文学部内での教員同士が科目履修に関する連絡会を開催するなど、学科の垣根を超えて連絡調整することが可能となった（資料 2-14）。このような文学部の仕組みに倣い、さらに人間科学部の学部長を中心に学科の垣根を超えて若手の教員同士がカリキュラムの在り方に関して自由に議論しカリキュラム改革を進めている。今後の発展に期待したい。

②改善すべき事項

教育研究組織の適切性についての検証を全学的に行う組織を確立し、実行に移す。

学長室や教学委員会が教育研究組織の運営に大きく関わりつつも、短期的問題の処理に追われ、理念や目的に基づく中長期的視野からの大学の運営に関しては長期ビジョン委員会などを設置しながらも、教学マネジメントがまだまだ機能していない。学科や専攻の将来をどのような全体の構図に投影していくかといった統括コントロールにまだ問題が残っている。

学部および研究科の教育活動については、シラバスと授業内容の整合性を学科長、学部長、研究科長などがチェックしている。学部では GPA を導入した成績評価によって到達目標の達成度を測定している。今後カリキュラムの社会的ニーズとの適合性などを検証することも必要である。研究活動については、全教員の研究業績をホームページに公表しており、さらに研究倫理調査に関しては外部の専門家に依頼して評価を受けることを考えている。

大学院教職課程における専修免許のカリキュラムの充実をさらにはかる必要がある。早急に大学院教員養成課程運営委員会を立ち上げ、教職指導の方針を策定する予定である。将来的には、学部の教職教育運営委員会、および子ども発達学科と連携できる教職支援センターの設置を検討している。

4. 根拠資料

- 2-1 神戸松蔭女子学院大学 教学機構図
- 2-2 アクションプラン発表会配付資料 (2013年5月30日、2013年3月21日)
- 2-3 非常勤講師雇用契約書
- 2-4 2013年度 担当授業に関する自己点検・評価集 CDR
- 2-5 大学院委員会 議事録 (2012年度第6回、第11回)
全学共通教育委員会 議事録 (2013年度第1回、2014年度第1回)
- 2-6 教学機構に関する規程
- 2-7 外国語教育センター規程
- 2-8 研究活性化のための新制度の導入について答申
- 2-9 新文学部構想案
- 2-10 教育業績評価規程
- 2-11 保育園構想 (答申)
- 2-12 人間科学部の改編について答申
- 2-13 キャンパス整備計画プロジェクトチーム答申書
- 2-14 文学部3学科実務会議 議事録 (2013年度、2014年度)
- 2-15 *キリスト教センター チャペルへようこそ
*情報教育センター Windows 教室利用ガイド
*神戸松蔭こころのケア・センター リーフレット

(*は本文中に記載はないが、提出を求められている資料)